

---

# 俺は不良の舍弟

桂 ヒナギク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺は不良の舎弟

### 【Zコード】

Z0766D

### 【作者名】

桂 ヒナギク

### 【あらすじ】

真面目な高校生活を送っていた主人公・神代祐助の人生はある日を境に一変してしまった。

俺の名は神代祐助。都内の高校に通い、眞面目な高校生活を送っていた。だがある時、その生活は一変した。

ある夏の日の事。

授業がかつたるくて受けたく無かつた俺は、屋上へとせりつて来た。そこには先客がいた。

そいつは背中まで伸びた金色の長髪にアホ毛が生えたつり目の少女。服装はドクロマークが背中に描かれたTシャツにジーンズ。不良、如何程つて感じのその少女が、フェンス前に設置された椅子に横に成つて寝ていた。

俺はその少女に近付いた。可愛い、じゃなくて！

「起きる」

その言葉に少女はうつすらと目を開けた。

「誰だテメエ、何か用か？」

「あ、いや、座ろうと思つたんだ」

彼女は起き上ると、

「テメエもサボりか？」

「ああ、まあな」と俺は座つた。

「俺は神代祐助。君は？」

「成瀬京香だ」

京香はそう言つて懐から煙草とライターを出し、一本口に銜えて火を点けて吸う。

「あ、あのさ君、未成年……だよね？」

「何か文句あんのか？」と俺を睨む京香。

「否、別に……」

「こいつマジで不良だ。関わらない様にしよう。

「所で君何年生？」

「うわあ、何言つてんだよ俺。関わらないんじゃなかつたのか？」

「……3年だ」

「へえ～、じゃあ俺と同じ学年だ。俺A組」

「B」

「よくサボるの？」

「毎日サボつてる」

「ふうん」

俺は素つ氣ない返事を返すと、背もたれに寄つ掛かつて目を瞑つた。

頬の一点が熱くなつた。

俺が薄目を開いて顧みると、京香が俺の頬に煙草の火を当てがつていた。

「何してんだよテメエ！？」

「ん？ いや、良い気持ちで寝てたから悪戯を」

「寝てねえよ！ つうか火傷したらどうしてくれんだ！？」

言つて俺は京香を睨んだ。

「知らねえ」

「知らねえじやねえよ！」

熱く成つた俺は京香の頬をグーで一発殴つた。

「なつ、テメエ今何した！？」

そう言つて逆上した京香が俺の胸倉を掴んだ。

「今私の頬を殴つたよな？」

「ごつ、ゴメン！ ついカツと成つて！」

「ゴメンじゃねえよ！」

京香は胸倉を掴んだまま立ち上がり、俺の顔面をもう片方の手で殴つて吹つ飛ばした。

俺は宙を舞い、コンクリに叩き付けられて数回転がつた。

「私の顔に傷が付いたらどうしてくれんだ！？」

言つて京香は上履きを履いたまま俺の腹を思いつ切り蹴つた。

「うつ！」

呻く俺。

「だからゴメツ」

俺の顔に上履きのまま足を乗せる京香。

ブチッ！　俺の中で何かが切れた。

「おい！」

「ああ？」

「その汚え足を退けろ」

京香は足を徐に上げ、一気に下ろした。

俺は既の所でかわして立ち上がった。

つて、あれ？　京香がいない……。

刹那、背後に人の気配を感じた。

俺は咄嗟に振り向いた。その先には京香が殺氣を漂わせながら立っていた。

俺は素早く飛び退いて構えた。

「俺とやろうつてのか？」

「ああ、テメエは私を殴ったからな」

「そうか。なら最初に言つておく！　俺は、かーなーり、強い！」

「テメエの様な軟弱そうな奴に私が負ける筈が無い」

そう言つと一瞬、京香が視界から消え、眼前に現れて回し蹴りを放つた。

俺は吹つ飛んでフェンスに激突してコンクリに落下した。

「バカな！？　クラスでは一度も喧嘩に負けた事無えのに！　上には上がいるつて事か。

「お前、神代つて言つたな。私の舍弟に成れ」

京香は俺の下に来るとそう言つた。

「舍弟だと！？　冗談じゃねえ！　誰が不良の舍弟に成れ」

京香は俺の頭を思いつ切り踏み付けてグリグリと回転させた。

「もう一度言おう。私の舍弟に成れ」

クソー、選択肢は無えのか。

俺は仕方無く「よ、喜んで舍弟に成ります」と造り笑顔で言つた。  
京香は足を退けてしゃがんだ。

「よひし、今からお前は私の舍弟だ。私の事は京香様と呼べ」

「…………」

俺が無言を返答にすると「返事しりー」と京香に頭を殴られた。

「はつ、はい！ 京香様！」

いひして俺は、眞面目な高校生から不良高校生の舍弟へと成り下がつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0766d/>

---

俺は不良の舍弟

2010年11月23日13時17分発行